

サプライチェーン・マネジメント

Why? なぜ重要か

サプライチェーンが世界各地に広がり、新興国を中心とする児童労働や強制労働などの人権問題や労働安全衛生など労働上の問題、環境破壊などが問題視されるようになりました。また、こうしたサプライチェーン上の問題がある企業に対する不買運動などによって社会課題を解決しようとする傾向も高まっています。企業は、自社のみならず、そのサプライチェーンも含めてCSRの取り組みを強化していく必要があります。

DAIKIN'S APPROACH

ダイキンでは、1992年に購買基本方針を制定し、取引先様との公正な取引に努めています。

グループ内にとどまらず、サプライチェーン全体を当社の社会的責任の範囲と捉え、「サプライチェーンCSR推進ガイドライン」を定め、サプライチェーンにおける環境、品質、労働安全、人権などのCSR取り組みを推進しています。

CSR調達の推進

「サプライチェーンCSR推進ガイドライン」の展開

ダイキンは、サプライチェーンにおける環境、人権、労働面などでのCSR取り組みを推進しています。CSR重点テーマに沿った中期計画「CSR行動計画2020」を策定し、その中でCSR調達の実行を掲げ、2017年4月、「サプライチェーンCSR推進ガイドライン」を策定しました。これは事業の安定的な継続・成長に向け、取引先様を含めたCSR推進のためのガイドラインです。経営や法令遵守などの一般的な要求に加え、環境・品質・労働安全・人権・紛争地域との取引禁止など、CSR全般にわたって取り組んでいくことを、取引先様をお願いしています。

2018年度は、日本国内の主要取引先様135社にCSR調査を実施し、CSR調達実施率は94%でした。

2019年度からは、日本国内の取引先様のCSRレベル向上に取り組むとともに、この取り組みをグローバルに展開していきます。



取引先様説明会でのガイドライン説明の様子

取引先様との連携

取引先様の品質向上、人材育成を支援

お客様に信頼いただける製品を提供するためには、取引先様の協力が欠かせません。ダイキンは、すべての取引先様と強い信頼関係のなかで切磋琢磨しながら、それぞれの立場で互いの期待に応え続け、共に成長・発展する関係づくりに努めています。国内外の拠点では、定期的に取引先様の生産現場における品質監査の実施や、品質改善に関する対話など取引先様と連携した品質向上に努めるとともに、技術力の向上を支援しています。また、安全に関する会合を定期的に開催するなど、労働災害の未然防止を支援しています。

納入資材や部品に含まれる化学物質情報の管理を効率化

ダイキン工業では、RoHS指令※などで規制されている化学物質が当社製品に混入することを防ぐため、取引先様から納入資材や部品の化学物質含有情報を提供いただいています。2018年度から、当社は経済産業省が推奨する製品含有化学物質情報伝達スキーム「chemSHERPA(ケムシェルパ)」を導入し、取引先様にも導入をお願いしています。当社と取引先様が共通の報告帳票やデータベースを利用することにより、化学物質の効率的な管理をめざしています。

※ 電気・電子機器における、特定有害物質の使用を禁止するEUの規制。